

仙台宗教音楽合唱団

第38回演奏会

2018年8月19日

日立システムズホール仙台：コンサートホール

演奏曲 歌詞対訳

オラ・イエイロ	合唱作品4曲	p.2
	1. Ubi caritas	
	2. Northern Lights (Pulchra es amica mea)	
	3. Tota pulchra es	
	4. Serenity (O magnum mysterium)	
ハインリヒ・シュッツ	「ヨハネ伝による受難曲」	p.3 - 13
	A.Mendelssohn校訂、挿入コラール付き	
シャルル・グノー	「聖セシリアの荘厳ミサ曲」	p.14 -15

オラ・イエイロ(Ola Gjeilo)

Ubi Caritas

Ubi caritas et amor,
Deus ibi est.
Congregavit nos in unum
Christi amor.
Exsultemus
et in ipso jucundemur.
Timeamus et amemus
Deum vivum.
Et ex corde diligamus
nos sincero. Amen.

慈しみと愛のあるところ、
神はそこにおられる。
私達を一つに集める
キリストの愛は。
喜ぼう、
そして彼（キリスト）自身において楽しもう。
畏れ、愛せよ、
生ける神を。
そして私達も互いに愛し合おう、
真実の心から。アーメン。

Northern Lights (Pulchra es amica mea)

Pulchra es amica mea
suavis et decora filia Jerusalem.
Pulchra es amica mea
suavis et decora sicut Jerusalem
terribilis ut castrorum acies ordinata.
Averte oculos tuos a me
quia ipsi me avolare fecerunt.

私の愛しい人よ、あなたは美しい、
甘美かつ華麗なる、エルサレムの娘よ。
私の愛しい人よ、あなたは美しい、
甘美かつ華麗なること、エルサレムのよう、
恐るべきこと、整列した軍営のよう。
あなたの眼差しを私からそらせ給え、
その眼差しこそが私を恐れさせるが故に。

Tota pulchra es

Tota pulchra es, Maria,
Et macula originaris non est in te,
Vestimentum tuum candidum quasi nix,
Et facies tua sicut sol.
Tu gloria Ierusalem,
Tu laetitia Israel,
Tu honorificentia populi nostri,
Tota pulchra es, Maria

マリアよ、あなたは全く美しい
あなたには原罪の汚れが無い。
あなたの衣は雪のように白く、
あなたの顔は太陽のよう。
あなたはエルサレムの栄光、
あなたはイスラエルのよろこび、
あなたはわれわれ人類の誇り。
マリアよ、あなたは全く美しい。

Serenity (O magnum mysterium)

O magnum mysterium,
et admirabile sacramentum,
ut animalia viderent
Dominum natum,
iacentem in praeseptio.
O beata Virgo,
cujus viscera meruerunt portare
Dominum Christum.
Alleluia!

おお、偉大なる神秘よ、
そして感嘆すべき秘蹟よ、
動物たちが見たとは！
生まれた主が
飼い葉桶に横たわるのを。
おお、幸いなる乙女よ、
あなたの胎は身ごもるのに値したのだ、
主、キリストを。
アレルヤ！

©Kenichi Yamagishi

シュツツ「ヨハネ伝による受難曲」

A.メンデルスゾーン校訂、挿入コラール①～⑦付き

コラール① パウル・シュトックマン(1603-32)「Jesu Leiden, Pein und Tod」第33節

Jesu, deine Passion
ist mir lauter Freude,
deine Wunden, Kron, und Hohn
meines Herzens Weide,
meine Seel auf Rosen geht,
wenn ich dran gedenke,
in dem Himmel eine Stätt
mir deswegen schenke.

イエスよ、あなたの受難は
私にとって公然の喜びです。
あなたへの傷、冠、そして嘲笑は
私の心の牧場（喜び）です。
私の魂はバラ(の園)へと向かいます、
私とその事について思う時には。
その故に、天において居場所を
私にお与え下さい。

冒頭合唱

Das Leiden unsers Herren Jesu Christi,
wie uns das beschreibt
der heilige Evangeliste Johannes.

我らの主、イエス・キリストの受難、
聖なる福音史家ヨハネが
我らに書き残されたものによる。

(以下、ルター訳ドイツ語聖書「ヨハネ福音書」第18章第1節～第19章第30節)

福音史家

Da Jesus solches geredet hatte,
ging er hinaus mit seinen Jüngern
über den Bach Kidron;
da war ein Garten,
darein ging Jesus und seine Jünger.
Judas aber, der ihn verriet,
wußte den Ort auch;
denn Jesus versammelte sich oft daselbst
mit seinen Jüngern.
Da nun Judas zu sich genommen hatte
die Schare und der Hohenpriester
und Pharisäer Diener,
kommt er dahin
mit Fackeln, Lampen und mit Waffen.
Als nun Jesus wußte alles,
was ihm begegnen sollte, ging er hinaus
und sprach zu ihnen:

イエスはこれらのことを語り終えると、
弟子達とともに外へ出て、
キドロン川の向こうへ渡っていった。
そこには園があって、
その中にイエスと弟子達は入っていった。
イエスを裏切ったユダも
この場所を知っていた。
というのも、イエスはしばしばこの場所で、
弟子達とともに集まっていたからである。
そこに今、ユダは、兵士の部隊、
および祭司長やファリサイ派から
遣わされた従者を引き連れ
たいまつ、ランプ、武器などを持って
やって来る。
その時には、イエスは
自分に起こるべき事を全て承知しており、
出て行って彼らに言った。

イエス

Wen suchet ihr?

「あなた方は誰を探しているのか？」

福音史家

Sie antworteten ihm:

彼らは答えた。

合唱 (ユダヤ人たち)

Jesum von Nazareth.

「ナザレのイエスを。」

福音史家

Jesus sprach zu ihnen:

イエスは彼らに言った。

イエス

Ich bin's.

「私がそうだ。」

福音史家

Judas aber, der ihn verriet,
stand auch bei ihnen.
Als nun Jesus zu ihnen sprach: Ich bin's,
wichen sie zurücke und fielen zu Boden.
Da fraget er sie abermal:

イエス

Wen suchet ihr?

福音史家

Sie aber sprachen:

合唱 (ユダヤ人たち)

Jesum von Nazareth.

福音史家

Jesus antwortet:

イエス

Ich hab es euch gesagt, daß ich's sei.
Suchet ihr denn mich,
so lasset diese gehen!

福音史家

Auf daß das Wort erfüllet würde,
welches er saget:
"Ich habe derer keinen verloren,
die du mir gegeben hast."
Da hatte Simon Petrus ein Schwert
und zog es aus und schlug nach
des Hohenpriesters Knecht,
und hieb ihm sein recht Ohr ab;
und der Knecht hieß Malchus.
Da sprach Jesus zu Petro:

イエス

Stecke dein Schwert in die Scheide!
Soll ich den Kelch nicht trinken,
den mir mein Vater gegeben hat?

イエスを裏切ったユダもまた
彼らの側に立っていた。
イエスが彼らに『私がそうだ』と言った時、
彼らは後ろに退いて地に倒れた。
イエスは再び彼らに尋ねた。

「あなた方は誰を探しているのか？」

彼らは言った。

「ナザレのイエスを。」

イエスは答える。

「私がそうだと、あなた方に言った。
あなた方が探しているのは私なのだから、
この者達は行かせてやれ！」

それは(イエスがこう言ったのは)、
彼が語った言葉が成就するためであった。
『私は、あなたが私に与えた者を、
誰も失わなかった』。
その時、シモン・ペテロは剣を持っていた。
そこで、それを抜いて、
大祭司の下僕に打ちかかり、
彼の右の耳を切り落とす。
その下僕の名はマルコといった。
そこでイエスはペテロに言った。

「剣を鞘に収めよ！
父が私に与えたこの杯を、
私は飲まずにいられようか？」

コラール② エルンスト・クリストフ・ホンブルク(1605-81)「Jesu, meines Lebens Leben」第1節

Jesu, meines Lebens Leben,
Jesu, meines Todes Tod,
der du dich für mich gegeben
in die tiefste Seelennot,
in das äußerste Verderben,
nur daß ich nicht möchte sterben:
Tausend-, tausendmal sei dir,
liebster Jesu, Dank dafür.

イエスは私の命の命、
イエスは私の死の死。
あなたは自らを私のために投げ出したのだ。
この上なく深い魂の苦しみの中へ、
非常な破滅の中へ。
ただ、私が死にたいと思わないように、と。
そのため、何千回もの感謝があなたに、
なされますように。愛するイエスよ。

福音史家

Die Schar aber und der Oberhauptmann
und die Diener der Juden nahmen Jesum
und banden ihn

兵士の部隊、千卒長、そして
ユダヤ人の従者達は、イエスを捕らえ
彼を縛って、

und führeten ihn auf's erste zu Hannas;
der war des Kaiphas Schwäher,
welcher des Jahres Hoherpriester war.
Es war aber Kaiphas, der den Juden riet,
es wäre gut, daß ein Mensch
umbracht würde für das Volk.
Simon Petrus aber folgte Jesu nach
und ein ander Jünger.
Derselbige Jünger war
dem Hohenpriester bekannt
und ging mit Jesu hinein
in des Hohenpriesters Palast.
Petrus aber stand draußen vor der Tür.
Da ging der andere Jünger,
der dem Hohenpriester bekannt war,
hinaus und redet mit der Türhüterin
und führet Petrum hinein.
Da sprach die Magd,
die Türhüterin zu Petro:

下女

Bist du nicht auch
dieses Menschen Jünger einer?

福音史家

Er aber sprach:

ペテロ

Ich bin's nicht.

福音史家

Es standen aber die Knechte und Diener
und hatten ein Kohlfeuer gemacht,
(denn es war kalt)
und wärmten sich.
Petrus aber stand auch
bei ihnen und wärmte sich.
Aber der Hohepriester fragete Jesum
um seine Jünger und um seine Lehre.
Jesus aber antwortet ihm:

イエス

Ich habe frei öffentlich
geredet vor der Welt.
Ich habe allezeit gelehret
in der Schule und in dem Tempel,
da alle Juden zusammenkommen,
und habe nichts im Verborgenen geredet.
Was fragest du mich darum?
Frage die darum, die gehöret haben,
was ich zu ihnen geredet habe.
Siehe, dieselbigen wissen,
was ich gesaget habe.

福音史家

Als er aber solches redete,
gab der Diener einer, die dabei standen,
Jesu einen Backenstreich und sprach:

最初にハンナの所へ連れて行った。
このハンナという者は
その年の大祭司カイファの舅であった。
またカイファとは、ユダヤ人達に
『一人の者が民のために殺されることは
良いことだ』、と助言していた者であった。
シモン・ペテロともう一人の弟子は、
イエスの後について行った。
この弟子は
祭司長(ハンナ)の知り合いであったので、
イエスとともに
祭司長の屋敷中庭に入っていった。
一方、ペテロは門の外で立っていた。
すると祭司長の知り合いである
そのもう一人の弟子が、
出てきて、門番の女と話して、
ペテロを中に導いた。
その時、その門番の下女が
ペテロに言った。

「あなたもまた
あの人の弟子の一人ではありませんか？」

だが、ペテロは言った。

「私はそうではありません。」

そこには下僕達や従者達が立っていて、
炭火をおこして
(寒かったので)
暖まっていた。
ペテロもまた
彼らの側で暖まっていた。
さて、祭司長ハンナは、イエスに、
彼の弟子達や彼の教えについて詰問する。
イエスは彼に答えて言う。

「私は自由に公然と、
世に対して話してきた。
私はいつも、
ユダヤ人皆が集まる
講堂や神殿において教えてきて、
人に隠れて話すことはしてこなかった。
なのに、お前達は私に何を問うのか？
私が何を語ってきたかは、
それを聞いた人たちに問え。
見よ、その人たちは知っている、
私が何を語ったかを。」

イエスがこう言った時、
彼の隣に立っていた従者の一人が、
イエスに平手打ちを食らわせ言った。

従者

Solltest du dem Hohenpriester
also antworten?

「お前は祭司長に対して
そのような答え方をしてよいのか？」

福音史家

Jesus sprach:

イエスは言った。

イエス

Habe ich übel geredt, so beweise es,
daß es böse sei;
habe ich aber recht geredt,
was schlägest du mich?

「私が悪いことを言ったのなら、
何が悪いのか証明せよ。
しかし私が正しいことを言ったのなら、
なぜ私を打つのか？」

コラール③ パウル・ゲルハルト(1607-76)「O Welt, sieh hier dein Leben」第3,4節

Wer hat dich so geschlagen,
mein Heil, und dich mit Plagen
so übel zugericht'?

Du bist ja nicht ein Sünder
wie wir und unsre Kinder,
von Missetaten weißt du nicht.

Ich, ich und meine Sünden,
die sich wie Körnlein finden
des Sandes an dem Meer,
die haben dir erregt
das Elend, das dich Schläget,
und das betrübte Marterheer.

誰があなたをこのように打ったのですか？
我が救いよ、誰があなたを苦しみでもって、
そんな酷い目に合せたのですか？
あなたは罪人では決してありません、
私たちや、私たちの子供らのように。
あなたは悪事について何も知らないのです。

私です。私と私の罪、
それらは、たくさん見いだされる
海辺の小さな砂粒のように
それらが、あなたに引き起こしたのです。
あなたを打つ不幸を、
悲しむべき多くの拷問を。

福音史家

Und Hannas sandte ihn gebunden
zu dem Hohenpriester Kaiphas.
Simon Petrus aber stand und wärmte sich.
Da sprachen sie zu ihm:

ハンナはイエスを縛って
大祭司カイファのところへ送った。
シモン・ペテロは立って暖まっていた。
そこで人々は彼に言った。

合唱 (ユダヤ人たち)

Bist du nicht seiner Jünger einer?

「お前は彼の弟子の一人ではないのか？」

福音史家

Er verleugnete aber und sprach:

ペトロは否認して言った。

ペテロ

Ich bin's nicht.

「私はそうではない。」

福音史家

Spricht des Hohenpriesters Knechte einer,
ein Gefreundter des,
dem Petrus das Ohr abgehauen hatte:

大祭司の下僕の一人も言う。
彼は、ペテロに耳を切り落とされた者の
友人である。

下僕

Sahe ich dich nicht
im Garten bei ihm?

「私は見たんだけどなあ、
お前が園で彼の側にいるのを。」

福音史家

Da verleugnet Petrus abermal;
und also bald krähet der Hahn.

ここでペテロが再び否認すると、
すぐに鶏が鳴いた。

Da führeten sie Jesum von Kaiphas vor das Richthaus, und es war früh. Und sie gingen nicht in das Richthaus, auf daß sie nicht unrein würden, sondern Ostern essen möchten. Da ging Pilatus zu ihnen heraus und sprach:

ピラト

Was bringet ihr für Klage wider diesen Menschen?

福音史家

Sie antworteten und sprachen zu ihm:

合唱 (ユダヤ人たち)

Wäre dieser nicht ein Übeltäter, wir hätten dir ihn nicht überantwortet.

福音史家

Da sprach Pilatus zu ihnen:

ピラト

So nehmet ihr ihn hin und richtet ihn nach eurem Gesetze.

福音史家

Da sprachen die Juden zu ihm:

合唱 (ユダヤ人たち)

Wir dürfen niemand töten.

福音史家

Auf daß erfüllet würde das Wort Jesu, welches er saget, da er deutet, welches Todes er sterben würde. Da ging Pilatus wieder hinein in das Richthaus und rief Jesu und sprach zu ihm:

ピラト

Bist du der Juden König?

福音史家

Jesus antwortet:

イエス

Redest du das von dir selbst, oder haben dir es andere von mir gesaget?

福音史家

Pilatus antwortet:

ピラト

Bin ich ein Jude?
Dein Volk und die Hohenpriester haben dich mir überantwortet; was hast du getan?

人々はイエスをカイファの所から総督官邸へ連れて行った。早朝だった。しかし彼らは官邸に入らなかった。というのは、彼らは汚れることなく、過越の食事をしたかったからである。そこで総督ピラトが彼らの所へ出てきて言った。

「お前達は、この男に対して何の罪で訴えをなすのか？」

彼らは総督に答えて言った。

「この者が犯罪者でなかったら、我々は彼をあなたに引き渡したりしない。」

ピラトは彼らに言った。

「それなら、お前たちが彼を引き取って、お前たちの律法に従って彼を裁け。」

するとユダヤ人たちはピラトに言った。

「我々は何人をも殺すことを許されていない。」

それはイエスが語った言葉が果たされるためであった。彼は自分がどのように死ぬかを示していたのである。そこでピラトは再び官邸の中に入り、イエスを呼び入れて彼に言った。

「お前はユダヤ人の王なのか？」

イエスは答える。

「あなたは自分自身でそう言っているのか、それとも誰か別の者が私についてあなたにそう言ったのか？」

ピラトは答える。

「私がユダヤ人（のような人間というのか）？ お前の民族と祭司長たちは、お前を私に引き渡した。お前は何をしたのだ？」

福音史家

Jesus antwortet:

イエスは答える。

イエス

Mein Reich ist nicht von dieser Welt.
Wäre mein Reich von dieser Welt,
meine Diener würden drob kämpfen,
daß ich den Juden
nicht überantwortet würde;
aber nun ist mein Reich nicht von dannen.

「私の国はこの世のものではない。
もし私の国がこの世のものだったならば、
私の従者たちが戦って
私がユダヤ人に
引き渡されないようにするだろう。
しかし今は、私の国はここには無い。」

コラール④ ヨハン・ヤーコブ・ランバツハ(1693-1735)「König, dem kein König gleicht」第1節

König, dem kein König gleicht,
dessen Ruhm kein Mund erreicht,
dem als Gott das Reich gebühret,
der als Mensch das Zepter führet,
dem das Recht gehört zum Throne
als des Vaters ein'gem Sohne,
den so viel Vollkommenheiten
krönen, zieren und begleiten.

どの王とも比べられない王よ。
その栄誉はどんな言葉も及ばない。
御国は神と同じく彼に相応しい。
彼は人として主権を統率する。
権力は玉座にある彼に属する、
父の唯一の息子として。
そんなにも多くの完全性が
彼を戴冠させ、飾り、随伴する。

福音史家

Da sprach Pilatus zu ihm:

ピラトはイエスに言った。

ピラト

So bist du dennoch ein König?

「それではやはりお前は王なのか？」

福音史家

Jesus antwortete:

イエスは答えた。

イエス

Du sagest es, ich bin ein König.※
Ich bin dazu geboren
und in die Welt kommen,
daß ich die Wahrheit zeugen soll.
Wer aus der Wahrheit ist,
der höret meine Stimme.

「あなたが言う、(その通り)私は王である。
私が生まれ、
この世に来たのは、
真理を示すためなのだ。
真理からの者は
私の声を聞く。」

※ この部分、聖書のギリシア語原文は「私が王だということは、あなたが言っていることだ。」と訳するのが正しい。
Du sagest es.は、マタイ福音書では3カ所出てくるが、ヨハネ福音書ではこの1カ所のみである。少なくとも
ここでは、ルターは「お前の言うとおりのだ」との意味にも読めるよう、ich bin ein Königとの間に、意図的に
何の接続詞も入れなかった。(しかし「お前の言うとおりの私は王だ」と明瞭に作文することもしなかった。)

福音史家

Spricht Pilatus zu ihm:

ピラトはイエスに言う。

ピラト

Was ist Wahrheit?

「真理とは何か？」

福音史家

Und da er das gesaget,
ging er wieder hinaus zu den Juden
und sprach zu ihnen:

ピラトはこう言うと、
再びユダヤ人の所に出て行き、
彼らに言った。

ピラト

Ich finde keine Schuld an ihm.
Ihr habet aber eine Gewohnheit,
daß ich euch einen
auf Ostern losgebe;
wollet ihr nun,
daß ich euch der Juden König losgebe?

福音史家

Da schrienen sie wieder allesamt
und sprachen:

合唱 (群衆)

Nicht diesen, sondern Barrabam!

福音史家

Barrabas aber war ein Mörder.
Da nahm Pilatus Jesum
und geißelte ihn.
Und die Kriegesknechte flochten
eine Krone von Dornen
und setzten sie auf sein Haupt
und legten ihm ein Purpurkleid an
und sprachen:

合唱 (兵士たち)

Sei gegrüßet, lieber Judenkönig!

福音史家

Und gaben ihm Backenstreiche.

「私は彼に何の罪も見いださない。
さて、お前たちの慣習では、
過越にあたり、私がお前たちに
一人釈放してやることになっている。
今、お前たちは、私がお前たちに
ユダヤ人の王を釈放することを望むか？」

するとユダヤ人たちは再び、一人残らず
叫んで言った。

「この者ではなく、バラバを！」

バラバとは殺人者だった。
そこでピラトはイエスを引き出して、
鞭で打った。
兵士たちは
茨の王冠を編んで、
イエスの頭にかぶせ、
紫の衣を着せて、
言った。

「ごきげんよう、愛するユダヤ人の王よ！」

そしてイエスに平手打ちを食らわせた。

コラール⑤ パウル・ゲルハルト「O Haupt voll Blut und Wunden」第1節

O Haupt voll Blut und Wunden,
voll Schmerz und voller Hohn,
o Haupt, zu Spott gebunden
mit einer Dornenkron,
o Haupt, sonst schön gezieret
mit höchster Ehr und Zier,
jetzt aber hoch schimpfieret,
gegrüßet seist du mir !

おお、血と傷にまみれた御頭よ、
苦痛と、嘲笑に充ちた(御頭よ)、
おお、嘲りのために
茨の冠で縛られた御頭よ、
おお、御頭よ、かつては美しく
最高の栄誉と誇りで飾られていたのに、
今や甚だしく辱められた(御頭よ)、
私の心からの挨拶を受け入れてください。

福音史家

Da ging Pilatus wieder heraus
und sprach zu ihnen:

ピラト

Sehet, ich führe ihn heraus zu euch,
daß ihr erkennet,
daß ich keine Schuld an ihm finde.

福音史家

Also ging Jesus heraus
und trug eine Dornenkrone und Purpurkleid.
Und er spricht zu ihnen:

ピラトは再び外へ出て
彼らに言った。

「見よ。私がお前たちの前に
引き出したのは、お前たちが、知るためだ。
私が彼に何の罪も見いだせないことを。」

こうしてイエスは外へ出されたが、
茨の王冠と紫の衣はつけたままだった。
ピラトは彼らに言う。

ピラト

Sehet, welch ein Mensch!

福音史家

Da ihn die Hohenpriester
und die Diener sahen,
schrieen sie und sprachen:

合唱 (全群衆)

Kreuzige ihn, kreuzige ihn!

福音史家

Pilatus spricht zu ihnen:

ピラト

Nehmet ihr ihn hin
und kreuziget ihn;
denn ich finde keine Schuld an ihm.

福音史家

Die Juden antworteten ihm:

合唱 (ユダヤ人たち)

Wir haben ein Gesetz,
und nach dem Gesetze soll er sterben;
denn er hat sich selbst
zu Gottes Sohn gemacht.

福音史家

Da Pilatus das Wort hörte,
fürchtet er sich noch mehr
und ging wieder hinein in das Richthaus
und spricht zu Jesu:

ピラト

Von wannen bist du?

福音史家

Aber Jesus gab ihm keine Antwort.
Da sprach Pilatus zu ihm:

ピラト

Redest du nicht mit mir?
Weißt du nicht,
daß ich Macht habe, dich zu kreuzigen,
und Macht habe, dich loszugeben?

福音史家

Jesus antwortet:

イエス

Du hättest keine Macht über mich,
wenn sie dir nicht wäre
von oben herab gegeben;
darum, der mich dir überantwortet hat,
der hat es größere Sünde.

福音史家

Von dem an trachtete Pilatus,
wie er ihn losließe.
Die Juden aber schrieen und sprachen:

「見よ、この人がどんなであるか！」

祭司長たちと
従者たちは、イエスを見て、
叫んで言った。

「彼を十字架につけよ、十字架につけよ！」

ピラトは彼らに言う。

「お前たち自身で彼を連れて行き、
十字架につければよい。
私は彼に何の罪も見いだせないのだから。」

ユダヤ人たちはピラトに答えた。

「我々は律法を持っている。
そして律法によれば彼は死ぬべきである。
なぜなら、彼は自分を
神の子と称したのだから。」

ピラトはこの言葉を聞くと、
より一層恐れて
再び官邸の中に入り、
イエスに言う。

「お前はどこから来たのか？」

しかしイエスは何も答えなかった。
そこでピラトはイエスに言った。

「お前は私に何も言わないのか？
お前は知らないのか？
私はお前を十字架につける権限も、
解放する権限も持っているのだぞ。」

イエスは答える。

「あなたは私について何の権限も持たない。
もしあなたが（その権限を）
天から与えられたのでなければ。
だから、私をあなたに引き渡した者、
その者にはより大きな罪がある。」

これ以後、ピラトはどうかして
イエスを解放しようと努めた。
しかしユダヤ人たちは叫んで言った。

合唱 (ユダヤ人たち)

Lässest du diesen los,
so bist du des Kaisers Freund nicht;
denn wer sich zum Könige machet,
der ist wider den Kaiser.

「この者を解放するならば、
あなたは皇帝の友ではない。
なぜなら、自らを王と称する者は、
皇帝に逆らっているのだから。」

福音史家

Da Pilatus das Wort hörte,
führte er Jesum heraus
und setzte sich auf den Richtstuhl,
an der Stätte, die da heißet Hochpflaster,
auf hebräisch aber Gabbatha.
Es war aber der Rüsttag in Ostern
um die sechste Stunde.
Und er spricht zu den Juden:

ピラトはこの言葉を聞くと、
イエスを外に連れ出し、
裁判の席についた。
その場所は「高い敷石」、
ヘブライ語で「ガバタ」といった。
それは過越の準備の日の
第六時(昼の十二時)だった。
ピラトはユダヤ人たちに言う。

ピラト

Sehet, das ist euer König!

「見よ、これがお前たちの王だ！」

福音史家

Sie schrieen aber:

しかし彼らは叫んだ。

合唱 (ユダヤ人たち)

Weg, weg mit dem, kreuzige ihn!

「その者を去らしめよ、十字架につけよ！」

福音史家

Spricht Pilatus zu ihnen:

ピラトは彼らに言う。

ピラト

Soll ich euren König kreuzigen?

「お前たちの王を十字架につけてよいのか？」

福音史家

Die Hohenpriester antworteten:

祭司長たちは答えた。

合唱 (祭司長たち)

Wir haben keinen König denn den Kaiser.

「我々に王はいない。皇帝がいるのだから。」

福音史家

Da überantwortet er ihnen,
daß er gekreuziget würde.
Sie nahmen aber Jesum und führten ihn hin.
Und er trug sein Kreuz
und ging hinaus zu der Stätte,
die da heißet Schädelstätte,
welche heißet auf hebräisch Golgatha.
Allda kreuzigten sie ihn und mit ihm
zween andere zu beiden Seiten,
Jesum aber mitten inne.

そこでピラトはイエスを引き渡した。
彼が十字架につけられるために。
彼らはイエスを引き取り、連行していった。
イエスは自分の十字架を担ぎ、
「髑髏(されこうべ)の場所」という
場所へと向かった。
そこはヘブライ語で「ゴルゴタ」といった。
そこで彼らはイエスを十字架につけた。
イエスとともに2人をその両脇に、
イエスを中央につけた。

コラール⑥ パウル・ゲルハルト「O Welt, sieh hier dein Leben」第1節

O Welt, sieh hier dein Leben
am Stamm des Kreuzes schweben,
dein Heil sinkt in den Tod;
der große Fürst der Ehren
läßt willig sich beschweren
mit Schlägen, Hohn und großem Spott.

おお、世界よ、ここにお前の命を見よ、
十字架に懸かっている(その命を)。
お前の救いは死の中に沈む。
偉大な栄誉の統治者は
喜んで自らに苦難を課したのだ、
殴打、侮蔑、多くの嘲笑による(苦難を)。

福音史家

Pilatus aber schrieb eine Überschrift
und setzte sie auf das Kreuz;
und war geschrieben:
"Jesus von Nazareth, der Juden König."
Diese Überschrift lasen viel Juden;
denn die Stätte war nahe bei der Stadt,
da Jesus gekreuziget ist.
Und es war geschrieben auf hebräische,
griechische und lateinische Sprache.
Da sprachen die Hohenpriester der Juden
zu Pilato:

合唱 (祭司長たち)

Schreibe nicht: Der Juden König;
sondern daß er gesagt habe:
Ich bin der Juden König.

福音史家

Pilatus antwortet:

ピラト

Was ich geschrieben habe,
das habe ich geschrieben.

福音史家

Die Kriegesknechte aber,
da sie Jesum gekreuziget hatten,
nahmen sie seine Kleider
und machten vier Teile,
einem jeglichen Kriegesknechte sein Teil,
dazu auch den Rock.
Der Rock aber war ungenähet,
von oben an gewirket durch und durch.
Da sprachen sie untereinander:

合唱 (兵士たち)

Lasset uns den nicht zerteilen,
sondern darum lösen, wes er sein soll.

福音史家

(Auf daß erfüllet würde die Schrift,
die da, saget:
"Sie haben meine Kleider unter sich geteilet
und haben über meinen Rock
das Los geworfen.")
Solches taten die Kriegesknechte.
Es stand aber bei dem Kreuze Jesu
seine Mutter und seiner Mutter Schwester,
Maria, Kleophas Weib,
und Maria Magdalena.
Da nun Jesus seine Mutter sahe
und den Jünger dabei stehen,
den er lieb hatte,
spricht er zu seiner Mutter:

イエス

Weib, siehe das ist dein Sohn!

ピラトは表書きを書き、
それを十字架の上に掲げた。
それにはこう書いてあった。
『ナザレのイエス、ユダヤ人の王』と。
この表書きは多くのユダヤ人たちが読んだ。
なぜなら、イエスが十字架に架けられた
その場所は、市街地に近かったからである。
その表書きは、ヘブライ語、
ギリシア語、ラテン語で書かれていた。
そこでユダヤの祭司長たちは
ピラトに言った。

『ユダヤ人の王』と書くな。そうではなく、
『彼は、私がユダヤ人の王だ、と語った』
と書いてくれ。』

ピラトは答える。

「私が書いたものは、
私が書いた通りだ。(その通りにしておけ。)」

さて兵士たちは、
イエスを十字架に架けてしまうと、
彼の衣服をとり、
4つに分け、
各々の兵士がその一つをとると、
今度は"上着"も分けようとした。
しかし上着は縫い目がなく、
上から下まで一枚で織られていた。
そこで彼らは互いに言い合った。

「これは裂かないで、
くじ引きして、誰のものにするか決めよう。」

(それは、次のように聖書に書かれた言葉が
果たされるためであった。
『彼らは私の衣を各々に分け、
私の上着については
くじ引きをした。』と。)
兵士たちはそのようにしたのだった。
さて十字架上のイエスの側には
彼の母、そして彼の母の姉妹で
クレオファの妻であるマリア、
そしてマグダラのマリアが立っていた。
イエスは今、自分の母と、
その側に立っている
自分の愛する弟子を見て、
母に対して言う。

「女よ、見なさい、彼があなたの息子です。」

福音史家

Darnach spricht er zu dem Jünger:

その後、イエスはこの弟子に言う。

イエス

Siehe, das ist deine Mutter!

「見よ、これがお前の母だ。」

福音史家

Und von der Stunde an
nahm sie der Jünger zu sich.
Darnach, als Jesus wußte,
daß schon alles vollbracht war,
daß die Schrift erfüllet würde, sprach er:

この時から
この弟子は彼女を自分のもとに引き取った。
その後、イエスは
全てが成し遂げられたことを知り、
聖書が成就するために言った。

イエス

Mich dürstet!

「私はのどが渴いた。」

福音史家

Da stand ein Gefäße voll Essig.
Sie aber fülleten einen Schwamm
mit dem Essig
und legten ihn um einen Ysop
und hielten's ihm dar zum Munde.
Da nun Jesus den Essig genommen hatte,
sprach er:

そこには酢が満たされた容器があった。
人々は海綿に
酢を染みこませると
それをヒソブ(の枝)に付けて、
イエスの口もとに保持した。
イエスは酢を受けると、
言った。

イエス

Es ist vollbracht!

「成就した！」

福音史家

Und neiget das Haupt und verschied.

そして頭を傾け、亡くなった。

終曲合唱 (ミヒャエル・ヴァイセ作のコラール「Christus, der uns selig macht」第8節)

O hilf Christe, Gottes Sohn,
durch dein bitter Leiden,
daß wir dir stets untertan
all Untugend meiden,
deinen Tod und sein Ursach'
Fruchtbarlich bedenken,
dafür wiewohl arm und schwach,
dir Dankopfer schenken.

助け給え、神の子キリストよ
汝の辛い受難を通して、
我々があなたに変わらず従い
全ての不徳を避けられるように、
あなたの死とその原因を
実り豊かに考えられるように、
その代わり、どれほど貧しく弱くても
あなたに感謝の捧げ物を進呈できるように。

コラール⑦ パウル・ゲルハルト「O Haupt voll Blut und Wunden」第8節

Ich danke dir von Herzen,
o Jesu, liebster Freund,
für deines Todes Schmerzen,
da du's so gut gemeint.
Ach gib, daß ich mich halte
zu dir und deiner Treu
und, wenn ich einst erkalte,
in dir mein Ende sei.

私はあなたに心から感謝します、
おお、イエスよ、愛する恋人よ、
あなたの死の苦痛の故に、
あなたはその苦痛を良しとされたのです。
ああ、私が身を保てるようにしてください、
あなたとあなたの誠実さに対して。
そして、私がいつか死ぬときには
あなたのもとに私の最期がありますように。

©Kenichi Yamagishi

グノー「聖セシリアの荘厳ミサ曲」 ミサ通常文

キリエ (Kyrie)

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

主よ、憐れみたまえ。
キリストよ、憐れみたまえ。
主よ、憐れみたまえ。

グローリア (Gloria)

Gloria in excelsis Deo.
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.
Laudamus te. Benedicimus te.
Adoramus te. Glorificamus te.
Gratias agimus tibi
propter magnam gloriam tuam.
Domine deus, rex coelestis,
deus pater omnipotens.
Domine fili unigenite, Jesu Christe.
Domine deus, agnus dei, filius patris.
Qui tollis peccata mundi,
miserere nobis.
Qui tollis peccata mundi,
suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dexteram patris,
miserere nobis.
Quoniam tu solus sanctus,
Tu solus dominus.
Tu solus altissimus,
Jesu Christe.
Cum Sancto spiritu,
in gloria dei patris, Amen.

天には神に栄光あれ。
地には善意の人々に平和あれ。
我々はあなたを称賛し、祝福し
拝み、崇めます。
我々はあなたに感謝します、
あなたの大いなる栄光の故に。
主なる神よ、天の王よ、
全能の父なる神よ。
神の一人子である主、イエス・キリストよ、
主なる神よ、神の子羊よ、父の御子よ。
世の罪を取り除き給う方よ、
我々を憐れみ給え。
世の罪を取り除き給う方よ、
我々の願いを聞き入れ給え。
父の右に座し給う方よ、
我々を憐れみ給え。
なぜなら、あなただけが聖だからです。
あなただけが主だからです。
あなただけが至高だからです。
イエス・キリストよ。
聖霊とともに、
父なる神の栄光のうちに。アーメン。

クレド (Credo)

Credo in unum deum,
patrem omnipotentem.
Factorem coeli et terrae,
visibilium omnium et invisibilium,
Et in unum dominum,
Jesum Christum filium dei unigenitum.
Et ex patre natum ante omnia saecula.
Deum de deo, lumen de lumine,
deum verum de deo vero.
Genitum, non factum,
consubstantiali patri:
per quem omnia facta sunt.
Qui propter nos homines,
et propter nostram salutem
descendit de coelis.
Et incarnatus est de spiritu sancto
ex Maria virgine: et homo factus est.
Crucifixus etiam pro nobis
sub Pontio Pilato:
passus, et sepultus est.
Et resurrexit tertia die,
secundum scripturas.

私は信じます、唯一の神を、
全能の父を。
天と地、全ての見えるものと
見えないものを創造された方を。
私は信じます、唯一の主を、
神の一人子イエス・キリストを。
全世界に先立って父から生まれた方を。
神からの神を、光からの光を、
まことの神からのまことの神を。
創られたのではなく生まれた、
父と一体である方を。
その方によって全ては創られました。
その方は、我々人々のために、
そして我々の救いのために、
天から降り来られました。
聖霊によって肉体を与えられ、処女マリア
から(生まれて)、人と成られました。
さらにまた、我々のために
総督P.ピラトの時、十字架につけられて
受難し、そして葬られました。
そして聖書の記述通り、
3日目に復活されました。

Et ascendit in coelum:
sedet ad dexteram patris.
Et iterum venturus est cum gloria
judicare vivos et mortuos:
cujus regni non erit finis.
Et in spiritum sanctum
dominum, et vivificantem:
qui ex patre, filioque procedit.
Qui cum patre,
et filio simul adoratur, et conglorificatur:
qui locutus est per prophetas.
Et unam, sanctam, catholicam
et apostolicam ecclesiam.
Confiteor unum baptisma
in remissionem peccatorum.
Et exspecto resurrectionem mortuorum.
Et vitam venturi saeculi. Amen.

そして天に昇って行きました。
父の右に座し給います。
そして再び、栄光と共に来られるでしょう、
生ける者と死せる者を裁きに。
その方の御国に、終末は無いでしょう。
私は聖霊を信じます。
主にして、生気を与える所の(聖霊を)。
(聖霊は)父と子から出ずる。
(聖霊は)父と共に、
また同時に子と共に拝まれ、讃えられた。
(聖霊は)預言者たちを通じて語った。
私は信じます。唯一の、聖なる、普遍の
使徒継承の教会を。
私は唯一の洗礼を承認します、
罪の許しのための(洗礼を)。
そして私は待ち望みます。死者の復活と、
来世の生命を。アーメン。

サンクトゥス (Sanctus)

Sanctus, sanctus, sanctus,
dominus deus sabaoth.
Pleni sunt coeli et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis.
Benedictus qui venit in nomine domini.
Hosanna in excelsis.

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
万軍の主なる神よ。
天と地は、あなたの栄光で満ちています。
天の高きところに、ホサナ。
主の名のもとに来たる人は祝福されよ。
天の高きところに、ホサナ。

アニュス・デイ (Agnus Dei)

Agnus dei, qui tollis peccata mundi
miserere nobis.
Agnus dei, qui tollis peccata mundi
dona nobis pacem.

世の罪を取り除き給う神の子羊よ、
我々を憐れみ給え。
世の罪を取り除き給う神の子羊よ、
我々に平和を与え給え。

この「聖セシリアの荘厳ミサ曲」においては、最終楽章Agnus Deiにおいて、
テノールとソプラノのソリストが、ミサ通常文に無い歌詞を歌う。その歌詞は以下の通り。

Domine, non sum dignus
ut intres sub tectum meum,
sed tantum dic verbo,
et sanabitur anima mea.

主よ、私には、あなたに私の屋根の下に
入っていただく資格はありません。
けれども、ただ言葉で語ってください。
そうすれば私の魂は癒やされるでしょう。

この歌詞は「ルカによる福音書」7:6-7の百卒長の言葉がもとになっている。

この百卒長は、頼りにしていた下僕が病気になるので、長老を通じて、下僕を救ってくれるようイエスにお願いをされた。そこでイエスが彼の家に向かう途中、百卒長は友人を使わしてイエスに以下のように申し上げた。

(以下、ルカ7:6-10)

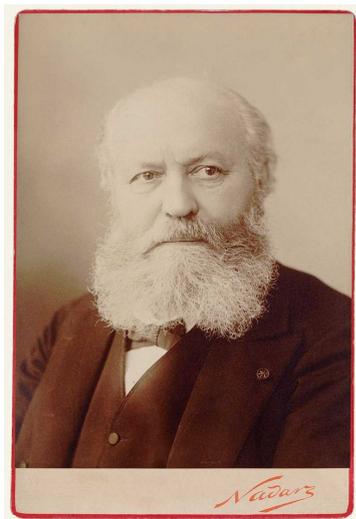
「主よ、どうぞ、ご足労くださいませないように。わたしの屋根の下にあなたをお入れする資格は、わたしにはございません。それですから、自分でお迎えにあがる値打ちさえ無いと思っていたのです。ただ、お言葉を下さい。そうすれば、わたしの下僕は癒やされるでしょう。わたしも権威の下に服している者ですが、わたしの下にも兵卒がいて、ひとりの者に『行け』と言えば行き、ほかの者に『こい』と言えばきますし、また、下僕に『これをせよ』と言えば、してくれるのです。」イエスはこれを聞いて非常に感心され、ついてきた群衆の方に振り向いて言われた。「あなたがたに言うておくが、これほどの信仰は、イスラエルの中でも見たことがない。」と。友人が百卒長の家に戻ってみると、下僕は元気になっていた。

©Kenichi Yamagishi



Ola Gjeilo (1978-)

Heinrich Schütz (1585-1672)



Charles Gounod (1818-93)